審議会等の会議結果報告

１．会　議　名	第 14 回　松阪市政推進会議
２．開 催 日 時	平成 31 年 1 月 29 日（火）午後 3 時～午後 5 時
３．開 催 場 所	松阪市役所　議会棟　第 3・4 委員会室
４．出 席 者 氏 名	出席委員：村林守委員、岡山慶子委員、酒井由美委員、髙島信彦委員、中川昇委員、西岡裕子委員、三井嬉子委員、渡邊幸香委員 欠席委員：梅村光久委員、佐藤祐司委員、平岡直人委員、松浦信男委員、村田吉優委員、吉田悦之委員、米山哲司委員 事 務 局：竹上市長、山路副市長、永作副市長、加藤企画振興部長、刀根経営企画課長、川上政策経営係長、近田文化・観光交流連携担当参事、榊原文化課長、松葉文化財担当監
５．公開及び非公開	公開
６．傍 聴 者 数	1 人（内、報道関係 1 社）
７．担　　当	松阪市企画振興部　経営企画課 TEL　0598－53－4319 FAX　0598－22－1377 e-mail　kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・事項、議事録は別紙のとおり

第 14 回 松阪市政推進会議　議事録

１．日　時　　平成 31 年 1 月 29 日（火）　午後 3 時～午後 5 時
２．場　所　　松阪市役所　議会棟　第 3・4 委員会室
３．出席者　　村林守委員、岡山慶子委員、酒井由美委員、髙島信彦委員、中川昇委員、西岡裕子委員、三井嬉子委員、渡邊幸香委員
※欠席者　　梅村光久委員、佐藤祐司委員、平岡直人委員、松浦信男委員、村田吉優委員、吉田悦之委員、米山哲司委員

〔事務局〕竹上市長、山路副市長、永作副市長、加藤企画振興部長、刀根企画振興部経営企画課長、川上企画振興部経営企画課政策経営係長、近田産業文化部文化・観光交流連携担当参事、榊原産業文化部文化課長、松葉産業文化部文化財担当監

１　市長あいさつ

お忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。

新年を迎えまして 1 回目の会議であります。本年もよろしくお願いいたします。

三重中学校が、ユネスコスクールの取組で、松浦武四郎をテーマに研究され、ベストアクティビティ賞を受賞した。その発表の中で、松浦武四郎を取り上げながら将来を語っていたが、我々の感覚とは違うものであった。今の 10 代の子たちが考えている未来と、50 代が考えている未来は大きく違う。バブル時代を経験した我々とは価値観がまったく違う。

今年は年号も変わり、時代が動いていく 1 年になる。価値観の創造というものが、ダイナミズムに変わっていく年になるのではないかと感じている。

そんな中、いよいよ観光交流センターがオープンし、旧長谷川邸を一般公開していく。

これからは「文化」がキーワードになると思っている。「文化」とは奥深い言葉であり、人が生きる営みを総称して「文化」というのではないかと思う。

文化財をどのように活用するか、文化によるまちづくりをしていかないと、若い世代の共感は得られないと思っている。

まちづくりにどう文化をからめていくかを本日のテーマとし、忌憚のないご意見をいただき、平成 31 年度に向けてご協力をお願いしたい。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

○　会議の公開・非公開の決定

会長）

お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。本日が通算 14 回目の会議となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

では協議を始めます前に、本日の会議の公開・非公開を決定する必要がございますが、本日の議題は、事項書にあるとおり「文化のまちづくりと文化財の活用について」であります。すでに策定されている中心市街地土地利用計画と旧長谷川家住宅保存活用計画の抜粋を資料に、文化のまちづくりや文化財の活用方法に対するご意見をいただければと思います。

本日の会議については、個人に関する情報などの非公開情報のご発言はお控えいただくことをお願いしまして、公開させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

（異議なし）

会長）

ありがとうございます。では、本日も公開で進めてまいります。

２　協議事項

１）「文化のまちづくり」と文化財の活用について

会長）

では、事項書に沿って進めてまいります。

事項書２の協議事項　１）「文化のまちづくり」と文化財の活用について、竹上市長から資料に沿って説明をいただきます。

（市長より資料の説明）

資料①　「豪商のまち松阪」中心市街地土地利用計画（抜粋）

資料②　重要文化財 旧長谷川家住宅　保存活用計画（抜粋）

市長に就任してから、公共施設の修繕や改修、観光交流拠点施設などの協議をするなかで、まずはまちのグランドデザインを作るまでは施設整備などの計画を凍結した。その時に作った計画が、中心市街地土地利用計画である。

市役所の周りに、たくさんの公共施設が集中している。また、重要文化財や有形文化財など、文化財についても市役所の周りに固まっている。

昔、祓川でみそぎをして伊勢の地に訪れたことから、松阪というまちは「神の国」と「俗世」の境目であると言われる方がいた。そういう部分も PR しても面白いと思っている。

旧長谷川家住宅　保存活用計画では、建物内で呈茶のサービスなど、保存だけでなく活用についても記載されている。

会長）
　ありがとうございました。市長より、資料の説明をいただきました。
　それでは、委員の皆さんから文化財を活用してどのようにまちづくりにつなげていくか、ご意見を頂戴できればと思います。
　その前に確認ですが、土地利用計画を見て気になったことですが、市有地の分布状況で松坂城跡が点在していますが、どういうことですか。

事務局）
　松坂城跡は、国と市の所有地がある。記載しているのは市有地の部分で、すべてを含めて松阪公園としている。

委員）
　「聖俗の境目にあるまち」であれば、どちらにも足をかけられる利点がある。たとえば、初めてこのような計画を見たときに、松阪のことを知っている人と、まったく知らない人が見るのでは、共感の仕方が違うと思う。バイアスをかけない視点で見ることが大切である。「境目」とうい見方もそうであるが、面白い見方こそが文化ではないか。多様な人が見た時、どのように見えるのかが大切である。ビジネスマンと研究者の目線は違う。

委員）
　「文化のまちづくり」について、若い人たちはどう感じているのか、声を聴く機会を設けた。今日の会議に間に合わなかったが、来週開催する予定である。結果はあらためて市長に報告したい。

委員）
　旧長谷川邸はきれいな建築物だと感じた。
　今、旧長谷川邸へ観光に来ている方がどのような年齢層か、どのようなルートで旧長谷川邸を見学に来ているのか。誰に見てもらいたいのか、それによって見せ方が変わってくる。どんな年齢層が訪れているのか知りたい。
　重要文化財での体験は難しいが、敷地の一部を借りて豪商の気分を味わう「豪商体験」ができないか。

委員）
　松阪市として文化財を含めたネットワークやストーリーが必要で、確実な情報を発信していく必要がある。
　最近の観光客は体験型を求めている。

市長）
　松阪もめんセンターの機織り体験が人気である。観光客のニーズに応えられる観光地にしていきたい。いずれ体験型の企画をしていきたい。

委員）
　来松者の滞在時間はどれくらいか。

事務局）
　滞在時間は把握していないが、一番多いのは立ち寄りである。

委員）
　立ち寄りではリピーターが増えない。松阪市を目的地に選んでもらい、滞在時間を長くする取組が必要である。

市長）
　観光地としては、伊勢神宮にはかなわない。伊勢神宮には年間 800 万人が訪れる。その一部の人でも松阪に寄ってほしいと思っている。松阪に立ち寄ってからでも神宮に行ける時間はある。

委員）
　一番の欠点は、お土産屋や飲食店がネットワーク化されていないこと。
　松阪牛を扱う若者たちで「牛若会」が結成されている。若い人たちの意見を聞いてほしい。

会長）
　最近の観光客は、まち歩きを楽しみたい人が増えてきている。「神の世界」は伊勢に任せて、「俗の世界」を松阪で楽しんでもらえないか。

委員）
　1 時間で周遊できる観光地ではなく、5 時間かかる体験型の観光地をめざしてほしい。そうすることで、松阪に宿泊してもらえるようになる。

市長）
　旅の形が変わってきている。今の若者は、泊る所にお金をかけなくなってきている。食事や自分のやりたいことにお金をかける傾向になってきている。

委員）
　庁内には、観光交流課、商工政策課、文化課があり、それらが一つになって観光施策を推進し、そこに市民が加わることが理想である。

市長）
　松阪市の観光入込客数は、年間 300 万人をめざしている。
　外国人観光客の誘客に取り組んでいる自治体もあり、観光施策は伸びしろがある部分だと思っている。
　RESAS のデータでは、松阪の一番伸びる産業は観光で、もっと力を入れるべきだとの分析結果であった。観光交流センターを拠点として観光施策に力を入れていきたい。

委員）
　松阪には資料はたくさんあるのに、PR がへたくそである。

委員）
　どうすれば文化と観光をつなげることができるのか、非常につなげることが難しい。行政が指針を作り、経済団体が同調・協力し、市民が参画する。これが理想であるが、その指針に対してどれだけ投資できるか、実際の波及効果を考えると気持ちが盛り上がらない一つの要素ではないか。
　観光・文化の発展は永遠のテーマで、皆さんの努力があり、今の状況がある。幼児期に見せながら大人になっていく。常に発信力を持ってほしい。松阪に対する思いを持ってもらい、旧長谷川邸を核として様々な文化財をつなげ、発信していくべきである。
　松阪も伊勢のように根付いていくような研究会が自然にできていけばいいと思う。
　小学生には遠足で旧長谷川邸に来て、実際に見てほしい。

委員）
　どこかへ行こうと思うと観光雑誌を買って調べるが、松阪のことは載っているのか。
　どこかに行こうと思えば情報が必要で、市のホームページで紹介すれば身近に感じてもらえるのではないか。
　ガイドさんとの会話も大切で、人が人を呼ぶことにつながる。

委員）
　松阪市から雑誌の編集社へ働きかけられないのか。

市長）
　松阪市と多気郡 3 町で観光パンフを作成したところ、かなりの人気がある。

事務局）
　観光パンフはサービスエリア以外にも設置してある。観光雑誌へは、松阪エリアの紹介を入れてもらうようにお願いしているところである。

委員）
　学生を呼び込む手法を考えてほしい。それだけの価値はある。小学生だけでなく、毎年来てもらえるようにできないか。それがきっかけになり最終的には U ターンにつながるのではないか。校外学習として取り組んでほしい。
　若い人はビジネスホテルでいいかもしれないが、高齢者向けにも考えてほしい。
　「俗の世界」はキーワードとして使えるのではないか。駅前に良いホテルがあれば宿泊し、美味しい料理を食べに来てくれると思う。
　例えば、元サッカー選手の中田英寿氏や二条城を観光施設として復活させたイギリス人のアトキンソン氏など、観光と文化をくっつけて PR できるセンスのある人にアイデアをもらえないか。

委員）
　コンパクトシティをうまく利用してほしい。まちをデザインして、周遊や体験をしてもらえるようにできないか。

委員）
　来た人や来る人に楽しんでもらうのではなく、住んでいる人が楽しくなるように、市民意識も大切だと思う。

委員）
　「目に見える観光」と「目に見えない観光」がある。松阪の人は、人柄が良いように感じる。観光の要素として、たくさんの人に発揮してもらう必要がある。人の持っている魅力が発揮されるように、全員参加で何ができるのか考えてほしい。

委員）
　新 1 年生の保護者に旧長谷川邸のことを聞いたら、誰も知らなかった。もっと PR が必要である。

事務局）
　少しずつではあるが、小学生にも来館していただいている。

市長）
　アンケート結果では、市民は松阪市のことを観光地だとは思っていない。市民の方に理解してもらう必要がある。

委員）
　小・中・高校生に対して、松阪市に資源があることを PR する必要がある。

委員）
　地元の人たちは地元に行かない。市民が歩きながら周遊できるルートを作ってはどうか。地元の認識も深まるのではないか。

委員）
　「文化のまち」と「観光のまち」は違うのではないか。市民は「文化のまち」だと思っているのではないか。市民は、観光と文化をつなげて考えていないのではないか。
　どんな文化のまちか、尋ねてみてはどうか。

会長）
　アンケートの設問の仕方ではないか。「観光客が来るまち」「観光として見るものがあるまち」など、聞き方ではないか。

委員）
　次世代を担う子どもたちの意識改革が大切だと思う。子どもたちへの発信の仕方を考えるべきである。

市長）
　学校教育の中で郷土の偉人や文化施設を小学生の頃から慣れ親しんでもらうことが大切だと感じる。

委員）
　総合学習の時間は何をしているのか。

市長）
　様々な取組をしているが、例えば、田植え・稲刈り、自分のまちを探索、中学生になると企業訪問など、各校で創意工夫して取り組んでもらっている。

委員）
　自分たちがガイドになって他の学校の児童をガイドする「子どもガイド」を育成してはどうか。

市長）
　はにわ館では、中学生がガイドボランティアを行っている。

委員）
　それを様々な施設でやってみてはどうか。

委員）
　総合学習では、「生きる力を付ける」ことを学んでいる。その観点から先生にアプローチすればできるのではないか。

市長）
　総合教育会議を主宰しているのは市長であり、教育の基本方針を定めている。その中で、郷土の偉人を教えていくことを盛り込んだ。松阪市の取組として、蒲生氏郷、三井高利、本居宣長、松浦武四郎の４人の副読本を作り、４年生が本居宣長、５年生が松浦武四郎、６年生が蒲生氏郷、三井高利を全小学校で学習している。独自の教育を進めているところである。

委員）
　子どもが松阪の文化に関心を持つことで、子どもから親の世代に広がる。その広がりが一番の近道でなはいか。

委員）
　親が文化を知らない世代になってきている。興味が無い方も増えてきている。ファミリーで松阪を考えることが理想である。

事務局）
　旧長谷川邸は、これまでは限定公開だったが、４月から一般公開される。見学しやすくなり、多くの方に見学してもらえると思う。

市長）
　文化の話をすると、最後は教育へつながる。教育は大切である。

会長）
　まち歩き観光やガイドはどのようになっているのか。

事務局）
　4 施設を連動させ、周遊性を高め、まち歩きマップを作成するシステムを導入する。どの施設に人気が集まっているのか、データベースとしても活用していく予定である。
　今年度、松阪歴史文化案内人講座を 11 回開催した。主に、施設で務めている方を対象に、松阪市全体を説明できるように学んでいただいた。今後も引き続き開催し充実していきたい。

市長）
　最後はガイドだと思っている。ガイドの育成が大切で、おもてなしの気持ちを持ってほしいと思っている。

委員）
　いろんな場所でのガイドを育成するには、学生のうちにボランティアを経験してもらうと良いのではないか。学生時代にボランティアを経験することが、学生にとってもプラスになると思う。

市長）
　ガイドボランティアの会があるが、ウエイトが大きく高齢になってきている。若い世代が入ってきてくれない。

委員）
　学生に体験で入ってもらえばどうか。

委員）
　ガイドボランティアの年齢はいくつぐらいなのか。企業を退職された方に関わってもらえないか。自分からその世界に飛び込むのは難しいが、声をかけてもらえれば入りやすいと思う。

委員）
　松阪市にボーイスカウトはいるのか。すごく戦力になる。少人数でもトレーニングを受けている人がいると、組織がまとまりやすくなる。

委員）
　松阪市は観光か文化か、どちらにウエイトを置いているのか。

市長）
　どちらにもウエイトを置いている。文化と観光は切っても切れない関係だと思う。文化財を活用して観光に結びつけていきたい。

委員）
　活用する場合、もう一度条例の見直しが必要ではないか。

市長）
　観光施設と文化施設をまとめるのに苦労した。観光と文化に携わる人が連携し、観光協会とタッグを組んでもらう形とした。うまく運営できるかは、これからの大きな課題である。

委員）
　民間を活用する場合、条例で縛りすぎると活用する意味がない。動きやすい環境づくりをお願いしたい。

市長）
　やってみて変えていく部分はあると思う。行政職員は、失敗が許されないと思っている。難しい部分もあるが、失敗を恐れずチャレンジしていきたい。

会長）
　ほかにご意見はございませんでしょうか。
　本日も良いご意見をいただきましたが、本日の議論はここまでとさせていただきます。
　では、進行を事務局に戻します。

事務局）
　ありがとうございました。
　では最後に、次回の開催について、ご連絡させていただきます。
　次回は、3 月 26 日（火）　午後 1 時 30 分より開催させていただきます。
　詳細についてはあらためて、ご案内させていただきますので、ご予定をお願いいたします。
　以上をもちまして、第 14 回松阪市政推進会議を終了させていただきます。
　ありがとうございました。

　«午後 5 時　終了»